

# 第31回運営推進会議

看護小規模多機能型居宅介護事業所るぴなす

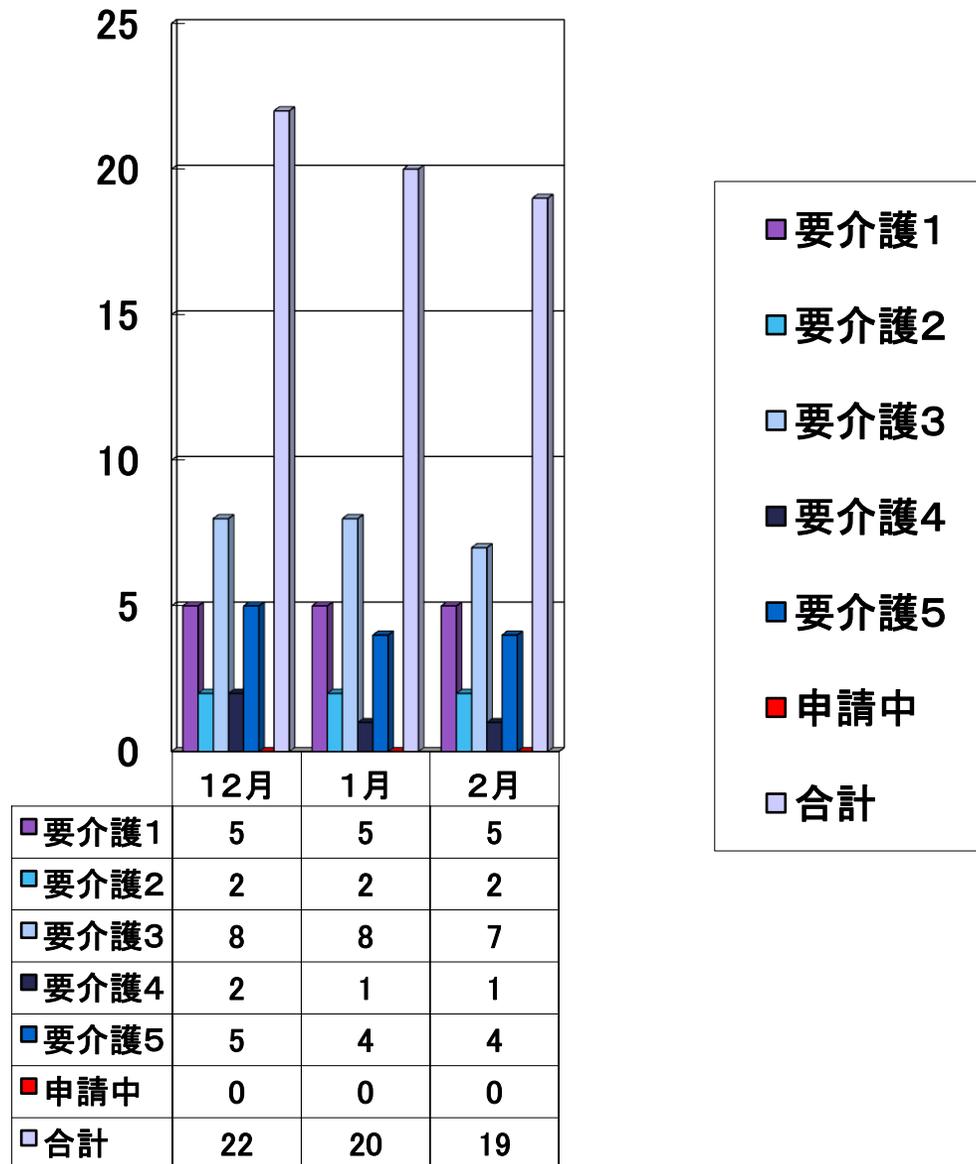
平成30年2月6日

# 第31回運営推進会議

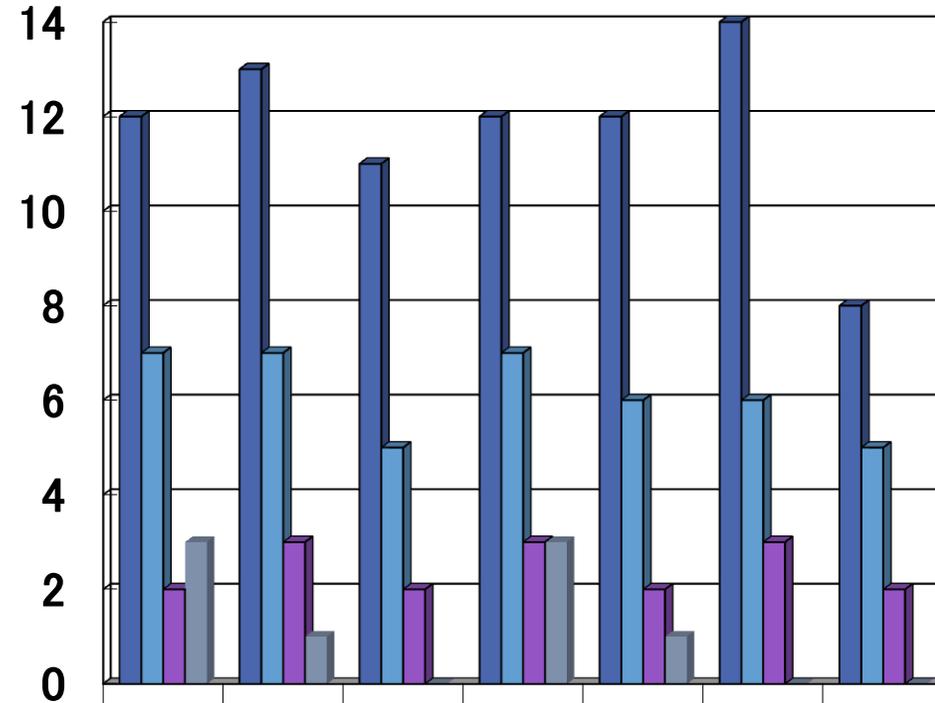
- るぴなすご利用者現況報告
- 新規ご利用者紹介
- 看取りの報告
- 活動報告
- サービス評価
- その他質疑応答・要望等

# 登録利用者数

平成29年12月～平成30年2月



# 平成30年2月 曜日別利用者数



- 通い
- 泊まり
- 訪問
- 訪問看護

■ 通い	12	13	11	12	12	14	8
■ 泊まり	7	7	5	7	6	6	5
■ 訪問	2	3	2	3	2	3	2
■ 訪問看護	3	1	0	3	1	0	0

## 新規ご利用者

- T・S様 女性 92歳 要介護1 長女家族と四人暮らし  
レビー小体型認知症により、幻覚がある。視覚障害があり、視野の中心部分が黒くなって見えない。  
H29.12.13利用開始。一人で家に居る時間が心配な為、通いや泊りを利用。

## 看取りの報告」

I・M様 女性 84歳 要介護5 一人暮らし  
上行結腸がん末期、肝・肺転移

<経過>

H29.11/7退院し利用開始。訪問、訪問看護、泊りを利用。退院後近所に住む長女様、東京の次女様と三女様が交代で介護。食事摂取量が少なくなっており、果物でつないでいた。両足のむくみが強く、骨折した右足は動かすと痛みが強かったが徐々に訴えはなくなる。

希望に応じ、ポータブルトイレ使用。水分摂取、清潔保持、足のマッサージ等行う。

義歯調整の為に訪問歯科診療も入る。

11/25～便に血液。濃縮尿。水分飲み込めず服薬が難しく、痛み止めを中心に服用。言葉が聞き取りにくい。貧血症状あり臥床して過ごす。

11/28声掛けには目は開けるが眠っていることが多い。 11/29重湯とミキサー食にする。

12/2排尿量減る。 12/5左下腿外側より滲出液ありパッドで保護。

12/7ご家族より入浴の希望あるが状態低下見られる為、ベッド上で洗髪と清拭を行う。

12/8血压測定できず、顔色悪い。往診。医師よりご家族へ状態説明あり、ご家族帰宅を希望  
昼前に帰宅する。

12/9 自宅にてご家族に見守られながら23:16永眠される。

## 看取りの報告」

S・Y様 女性 96歳 要介護4 次女様と二人暮らし

<経過>

老人保健施設に入所されていたが、食事摂取量が少なくなっていた。帰宅に伴い看護小規模多機能を利用し、自宅と行き来する生活を予定。

H29.12/22老人保健施設を退所し、るぴなすに一泊。斎藤内科クリニック受診し、訪問看護も入る。

12/23夕方帰宅後、次女様より呼吸が止まったようだと連絡受ける。斎藤先生より20:50死亡確認される。

## 看取りの報告」

Y・K様 男性 101歳 要介護3 一人暮らし

<経過>

H22.9利用開始。週2回通い、通い日以外は訪問、テレビ電話による安否確認、掃除、通院・銀行・買い物支援。食事はお孫様が購入して届け、ご自分で用意されていた。

H29.3/22訪問マッサージより、自宅で動けなくなっていると連絡あり訪問。血圧が高かった為、翌日より毎日訪問し血圧測定と排泄介助行う。

5/28本人より緊急コールあり、訪問すると倒れている。前日3時間草取りをして足が痺れたようだ。一泊し、希望により帰宅する。

6/26自宅で転倒し左肘大きく剥離。1日2回ガーゼ交換行う。

11/13痰絡み、喉の赤味あり、風邪薬処方。

11/15訪問マッサージより連絡あり、倒れている。顎にケガ。歩行困難な為、泊まり利用。

繰り返し、発熱、喘鳴・痰絡み・ムセ強くあり。食事は摂れたり摂れなかったり。

夜間トイレやコール頻回、徐々に便秘、除脈見られ、両脚の浮腫が強くなる。気管支拡張テープ、下剤調整、利尿剤を使用する。

H30.1/7夕食の最後、喉に詰まり呼吸困難、タッピング、ハイムリック法、吸引により回復。

1/8おやつ時再び呼吸困難、タッピング・吸引続けるも呼吸停止。お孫様・お婿様到着され、18:10斎藤先生より死亡確認される。

## 地域支援

1月28日（日）昼過ぎ、高志二丁目自治会長さんより「るぴなす」へ電話あり。  
高志二丁目にお住いの視覚障害の高齢者独居のお宅で26日（金）水道管破裂。  
近所の方が発見してくださり、自治会長さんに連絡あり。  
自治会長さん、利用していたヘルパーさんの協力のもと、修理業者に連絡、修繕したものの同日m、別の場所で再破裂。  
再度業者に連絡するも、連日の冷えで同じように水道管破裂したところが多く、修理の目途立たず。

自治会長さんをはじめ、近所の方々が水や食べ物を届けたり、見守りで訪問してくださったりしている。

「るぴなす」で何日か、宿泊できないだろうか？

⇒28日（日）包括支援センター姥ヶ山に連絡

29日（月）自治会長さん立会いのもと、今後について検討相談。

掃除、買い物は、現在利用しているヘルパーさんで対応。

要支援認定済みで週1回、るぴなすのデイサービスを利用し入浴。

ケアステーションるぴなすでは、昼食時お弁当の配食を支援。

# サービス評価

看護小規模多機能型居宅介護事業所は、運営推進会議をおおむね2月に1回以上開催することと規定されているがサービスの改善および質の向上を目的として、自ら提供するサービスについて評価・点検（自己評価）を行うとともに、自己評価結果について、運営推進会議等において第三者の観点からサービスの評価（外部評価）を1年に1回以上行う。

サービスの質の評価の客観性を高め、サービスに質の改善を図ることを目的とし、結果の公表を行うことが義務付けられており、利用者に対するサービスの提供にあたり、職員に対し、十分意識付けを図ることが求められている。

# サービス評価

スタッフ個別評価



事業所自己評価



外部評価



評価の公表

●これまでの取り組みやかかわりを自らに向き合い、振り返ります。個人作業(11月中旬まで)

●各自が取り組んだ「スタッフ個別評価」を持ち寄り、全体で話し合い、それぞれの考えや実践、項目に関する捉え方の違いなどを話し合い、その中から改善の方策を考えます。事業所のコミュニケーションの場ともなります。(12月上旬～下旬)

●運営推進会議で話し合います。(2月～3月)  
「できている」「できていない」という結果のみで判断するだけでなく、事業所が真摯に自らの取り組みを振り返り、質の向上を図っているか確認します。地域が日頃感じていることと事業者自身が考えることとの違いについて話しあい、事業所の課題や今後の方向を見出します。(3月)

# サービス評価のポイント

- ◆スタッフ全員が自らを振り返り、自己評価を行うこと(スタッフ個別評価)
- ◆スタッフ個別評価とともに、事業所全体で振り返り、話し合い、共有すること(事業所自己評価)
- ◆運営推進会議で、事業所自己評価の結果を報告し、かつ、地域からの意見を頂き、運営に反映させること
- ◆自己評価及び運営推進会議による評価を毎年繰り返しながら、質の向上を図っていくこと
  - ⇒ 評価をスタッフ全員で行い話し合うことでチーム作りになり、提供しているサービスの確認になる
  - ⇒ 地域の方々より事業所に対する理解が促進される
  - ⇒ 外部評価を行う運営推進会議に行政や地域包括支援センターが参加することで、理解が促進される

# 第31回運営推進会議

看護小規模多機能居宅介護事業所るぴなす

開催日時：平成30年2月6日(火) 18:00～

出席者：自治会長・目黒様，地域包括センター姥ヶ山・小石様，民生委員・大嶋様

ご利用者ご家族・高橋様

法人代表・斎藤先生，法人総務・物江，管理者・小林

## 1 斎藤先生より

今年は大雪で、車の事故があったり、歩行者も車道を歩くので気を付けましょう。

12月末に柴犬の救出について、新潟日報の窓でやりとりがありましたのでご紹介します。

ここが地域の相談場所となり、高齢者のみならず皆で動ける体制があって良かったと思います。そして今度は、盲目の一人暮らしの方の家の水道管破裂し、皆で助けています。介護保険だけでは賄えない事があり、目の前で困った人を助ける事が大切で、自治会長，民生委員，近所の方の協力で助けることが出来ています。

地域の中の情報が入って来てつなぐ役目となり、地域の中に溶け込んで、困った事があれば考える場になればと思っています。

## 2、ご利用者現況報告

### ・登録利用者数

12月から、3名の看取りがあり、現在19名。

利用の相談はあるが、家が遠かったり、ご本人とご家族の希望が整理できていなかったりで、なかなか利用まで至らず登録が増えない。こちらで利用できない場合は、他の所を提案するなどして繋げている。

### ・曜日別利用者数

それぞれの生活スタイルに合わせてご利用して頂いているので、少ない日も多い日もあり、毎週異なる。

## 3、新規ご利用者紹介

### ・T・S様

## 4、看取りの報告

- ・希望通りに自宅で生活し、訪問と通い利用。101歳まで一人暮らしされていた。
- ・亡くなる前に帰宅できた二例。
- ・ご家族の希望や、主治医から説明により、どこで最期を迎えるか選んで頂くのは良い。ご本人が希望されていれば迷わず決める事ができる。意思確認が大事。

民生委員：一人で身内のいない人は、具合が悪くなったらどうしたら良いのか、個人情報なので相談できず困っている。

地域包括：後見人を使う人は多くなっているが、申し立てをする人が必要。本人の状態が良ければ良いが、できないと市町村が入るので遅くなる。決まるまでは包括やケアマネがやらざるを得ず、決まるまでどうするかが問題。

齋藤先生：共生社会と言っても関わって欲しくないと思っている人もいるだろう。

自治会長：警察は情報を持っていても、個人情報なので難しい。

## 5、活動報告

○行事、日頃の様子をパワーポイントで写真を見て頂きながら報告

- ・家族会・・・運営推進会議後に年に一度の家族会を行いました。皆さんで食事した後、ボーリング大会をチームに分かれて行いました。たくさんの笑顔が見られ、皆さんで楽しいひと時を過ごすことができました。
- ・お正月・・・お神酒をいただきました。
- ・初詣・・・沼垂白山神社へ、希望された方で行って来ました。
- ・お正月・・・お正月の遊び
- ・新春ショー・・・職員による出し物、踊りと寸劇『水戸黄門』  
いつもは訪問のみ利用されている方も行事の際はお誘いし、見物に参加されました。
- ・節分・・・鬼の貼り絵、福豆の袋作り。  
節分の由来についてご利用者様ご自分で調べて書いて来て下さいました。
- ・お誕生会

## 6、地域支援

- ・迷い犬救出、2件

- 視覚障害の独居高齢者宅の水道管破裂し、地域包括支援センター，自治会長，民生委員，近所の方，ヘルパーが連携、協力し、るぴなすでは昼食の配食を行い、地域で見守って支援している。
- 地域の方につきぎ役である事を認識してもらい、協力できればと思っている。
- 山コミでもお互いさまネットワークがあり、ゴミ捨てを手伝っている。地域共生の会議もまたしていきたい。夜の茶の間でも話をしましたし、地域でできるところは支え合い、あとは行政や保健所などつなげる所へつなぐ。
- 受け止め役として小規模多機能は地域を見る役割がある。
- 今まで何をしたら良いか考えてはいたが、今回の実際に配食に関わる事ができ、職員から良かったとの声聞かれています。
- 雪の降った朝、スコップを持って雪かきしてくれている人がいる。良い事は褒めていかないといけない。柴犬救出については桜ヶ丘小学校に貼り出されており、校長先生から全校生徒に話してもらった。
- 除雪も助け合い，お互いさまで、優しさの連鎖。昔ながらのいい時代になっていくといいですね。

## 7、サービス評価

- ・初めにスタッフが個々に、取り組みを振り返り自己評価を行い、その後全体で話し合いました。話し合いから事業所自己評価を作成し、ご家族、運営推進会議出席者にお配りし、ご意見を頂戴しました。ご協力ありがとうございました。意見の多かったものを紹介し更にご意見を頂きたいと思います。

### <項目10>

- ・前回の改善計画の進捗評価にもある災害時対応について  
災害対策マニュアルに、訓練の継続をして気付いた必要な事を付け足していく。  
地域の方、自体会との協力・連絡体制をお願いしたい。私たちも自治会で実施するものに  
参加していきたいと考えている。

### <項目1>

- ・具体的にどのような事例があったか、良い所はPRして良いと思う。
- ・今後利用者がもっと多くなった場合の行政の考え方は？  
→地域包括ケアシステムでは24時間365日見守りが必要であり、国から小規模多機能を  
増やすこと、と下りてきている。県・市へも普及啓発するようにと進められているが、  
小規模多機能は経営・運営が大変なので、本体に支店二軒できるサテライトがある。これ  
まで市が認めて来なかったサテライトができればケアマネ、看護師が兼務可能なので小規  
模多機能がもっと普及していくと思います。

## <項目27>

- ・状態の変わった段階に合わせた支援の内容、本人の意思決定を、支える皆で共有し、望んでいる事を見える化する。ACPが大切。今予想される各ステージで、説明・共有。職員へも伝えて、教育していく研修を予定している。意思の表示、相談・計画もシートで共有する。その時その時で考えを変えても良いので、それを皆で共有できる取り組みをしていきたいと思っています。

## <項目40>

- ・地域との関わりは、事例を通してわかっていったり、チャレンジしながら、地域との関わりを考えてやっていきたい。
- ・事例から学ぶ。本人が希望しなければサービスに結びつかない。お茶飲みや、ボランティアを募り集まって、フレイルチェックをしたい。お茶の間で始めようとしている。
- ・地域ごとの事情がある。集会の場所とか。京王も茶の間はある。回覧板はなかなか見てもらえず、赤字でよく見ましようとした。
- ・12/14と1/14に迷い柴犬を助けたが、まずは現場へ行くことが大切だと思った。新聞の窓に投稿した小学生の文章が素晴らしい。地域包括支援センターからも良い地域だと褒められた。まずは自分たちの圏域で、助け合いの気持ちを持っていきましょう。

## <項目9>

- ・危機管理について、事故防止のための研修も大事だか、やらなければいけない事がある。事故は一回あると大変なことになる。報道で様々な事件事故があるので、自分たちの身の置き替えて、リスクマネジメントしていかなければならない。社会的信頼を失わないように、私達も気を付けていきたい。
- ・やらなければ怒られ、やりすぎても怒られ、働き方改革も難しい。まず目の前のことをやる。お互い知恵を出し合い、やれて良かったとなるようにしたい。



5月15日



5月15日



7月11日



7月18日

ありがとうございました(\*^\_^\*)